

平成19年度 消防本部 改革マニフェスト 自己検証シート

1) 目標と成果

マニフェスト	項目名 (担当部署)	集中改革プラン 項目	取り組み内容	区分	成果指標			活動指標			活動指標			自己評価
					H17	H18	H19	H17	H18	H19	H17	H18	H19	
1	応急手当の普及啓発活動の推進 (消防本部)	51-4	人工呼吸や心臓マッサージ及びAED(自動体外式除細動器)の使用方法等、普通救命講習等を通して応急手当の普及啓発を行い、救命率の向上を図るため佐渡市の人口の20%を目標にパイスタウンの育成に取り組みます。平成19年度は、少年期に防災と命の尊さの意識を育てるため、小・中学生を対象に防災・救急指導講習を実施するとともに、一般市民を対象としたAEDの取扱いを含めた普通救命講習を随時実施します。	指標名	救命率			普通救命講習受講者数(累計)						A
				指標の算式等										
				目標(A)					550人 (1,930人)	600人 (2,539人)				
				実績(B)		5.00%	8.00%	430人 (1,380人)	559人 (1,939人)	882人 (2,821人)				
				(A)と(B)の比較					9人	282人				
2-	AEDの設置促進 (消防本部)	51-4	不特定多数の人を収容する施設等に応急手当の普及啓発とともに、関係部局と連携し、AEDの設置を促進します。平成19年度は、利用者の多い公共施設等と収容人員300人以上の旅館・ホテル、常時多数の人を収容する中規模以上の物品販売店舗及び遊技場を対象に、次のとおり取り組みます。公共施設等	指標名	公共施設におけるAEDの設置台数			公共施設におけるAED取扱い説明受講者数						A
				指標の算式等										
				目標(A)			10基			320人				
				実績(B)		1基	22基		0人	183人				
				(A)と(B)の比較			12基			137人				
2-	AEDの設置促進 (消防本部)	51-4	民間施設	指標名	民間施設におけるAEDの設置台数			AED設置済の事業所におけるAED取扱い説明受講者数						C
				指標の算式等										
				目標(A)			24基			100人				
				実績(B)		3基	10基		46人	85人				
				(A)と(B)の比較			14基			15人				
3-	焼死者防止対策 (消防本部)	31-4	建物火災による死者の9割が一般住宅火災によるものであり、その約半数を65歳以上の高齢者が占めていることから、65歳以上の1人暮らし世帯を対象に、関係機関等と連携を図り、消防職・団員とて防火訪問指導を行い、住宅用火災警報器の設置を推進します。平成19年度は、火災件数の減少を図り、及び焼死者をなくすため、75歳以上の世帯を対象に福祉保健部と調整を図り、消防職・団員とて関係機関の協力を得て防火指導を実施します。 火災発生件数減少目標	指標名	火災発生件数(暦年)			火災発生による焼死者数(暦年)						D
				指標の算式等										
				目標(A)			24件	0人	0人	0人				
				実績(B)	45件	51件	43件	5人	4人	6人				
				(A)と(B)の比較			19件	5人	4人	6人				
3-	焼死者防止対策 (消防本部)	31-4	防火訪問件数	指標名	75歳以上高齢者が出火原因の火災発生件数(暦年)			75歳以上1人暮らし高齢者防火訪問指導件数						B
				指標の算式等										
				目標(A)	0件	0件	0件			1000件				
				実績(B)	15件	5件	7件	58件	61件	866件				
				(A)と(B)の比較	15件	5件	7件			134件				

2) 取組過程と取組み後の対応

区分	チェック項目	自己評価	自己評価について(所見)
取組過程	取り組みの段階において市民への説明やPRを十分に行ったか。また市民からの質問に対応する方法や体制が確立されていたか。	B	全ての項目に対する取り組みにつきましては、CTV、市報さど等の広報機関を活用したほか、事業所や市民団体からの要望に対して積極的に対応させて頂きました。
	目標達成に向けた部局内の体制は効果に対し相応な対応であり、かつ万全であったか。(過剰な活動や予算、人員による取組みがなかったか。)	B	各項目ごとの担当部署で、本来の業務と併せて効率の良い最善策を検討していただき、より効果的な対応に努めたが、人員配置の関係で時間外での対応となった部分もあります。
	部局長のリーダーシップのもと、目標達成に向けた所管職員の意識啓蒙や部局内の風土づくりが行われたか。	B	掲げた目標を達成することが、全て市民の安全、安心につながる事であると職員全てが認識し、対応できた。

平成19年度 消防本部 改革マニフェスト 自己検証シート

	所管職員が佐渡市行政改革マニフェストの趣旨と内容を十分に理解し、目標の達成に向けて精力的に取り組んでいたか。	B	各署単位で管轄区域での目標に向け取り組みながら、各署の情報を共有し対応した。
	目標達成のための行程管理や関係機関等との調整が適切に行われていたか。	B	特に高齢者の単身世帯の防火訪問の実施については、地域の民生委員の方々の協力を頂きスムーズな対応が出来た。
取組み後の対応	目標の達成に対する効果(アウトカム)の把握、または把握することの手立てをしたか。	C	防火訪問、広報等において、PR効果の確認のため警報装置の普及のアンケート調査を実施したが、予想以下の回収率と効果結果が出てなかった。
	目標を達成していない項目については、具体的な改善策を計画し、または他の手段により対応したか。	C	一般事業所へのAEDの普及について、各事業所に対し設置の説明に回り促進を図りましたが、高額な予算が必要でもあり、また、運用管理において理解が得られない部分もありましたので、理解して頂くためAEDを使った講習会の開催をお願いし理解を求めた。
	実績と今後の対応について市民に説明を行ったか。	C	消防署が開催する各種イベント、行事に於いて説明しただけで、十分な対応は出来てなかったと思われる。
	取り組みの過程と実績、課題点などについて部局内で話し合わせ、所管職員が状況を理解しているか。	B	取り組みについては、各担当係長が中心となり対応し理解されている。
	実績に対する市民の質問や要望に対応する方法を確立したか。	B	掲げた目標をクリア出来た応急手当の普及については、定期開催以外は全て、事業所、各種団体、地域の要望に添う方向で対応できた。

3) 総評

今年度の取組みに対する部局長のコメント	
<p>今年度は新たに海府分遣所、前浜分遣所の2拠点が開設となり、国中地区の拠点整備が遅れ人員配置が分散することとなり、各署のマニフェスト対応については非番職員や職員のボランティアでの対応となりましたが、継続の応急手当の普及についてはある程度の対応が出来た。また、新規に掲げたAEDの普及については、公共施設は当初5台の整備であったが、寄附の台数が15台と多くあり大変助かりました。事業所関係のAED設置については、大きなホテルにつきましては積極的に対応して頂きましたが、お客様に対する最も重要な備えは、安全、安心が基本という意識を持ってもらえず予定を下回る結果となりました。火災件数と焼死者につきましては、大きな課題として今後の対策が必要となっています。(緊急な対策が必要である)</p>	
【良かった点】	<p>普通救命講習については、自分の家族、職場の人の命は自分が守るという意識が育ち、受講者数が増加しているように思う。</p>
【悪かった点】	<p>昨年推進委員の方から救急搬送について、搬送時間だけでなく利用実態の把握と課題を整理して、次の取り組みに反映させるようにとのご意見を頂いたが、救急車の適正利用のお願いを市民向けに広報誌とCATVでPRしただけで、実態は把握までには至らなかった。</p>